

## 第36章 渋谷ハロウィーン

1 「渋谷ハロウィーン」・・・・・・・・・・・・・・・・	1
（1）「渋谷ハロウィーン」という名称・・・・・・・・	1
（2）「渋谷ハロウィーン」の場所・・・・・・・・	1
（3）「渋谷ハロウィーン」の時期・・・・・・・・	7
（4）意味を喪失した祝祭イベント・・・・・・・・	9
2 何故若者は渋谷に集まるのか・・・・・・・・	11
（1）渋谷と若者・・・・・・・・	11
（2）渋谷のハロウィーンとスクランブル交差点・・・・・・・・	15
（3）最近の日本のハロウィーン・・・・・・・・	15
（4）若者を引き寄せる「場」としての渋谷・・・・・・・・	16
（5）自由の象徴スクランブル交差点・・・・・・・・	17
3 地味ハロウィン・・・・・・・・	24
4 松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎』（2019）・・・・・・・・	33
5 波及する渋谷化現象・・・・・・・・	37
注・・・・・・・・	42

## 第36章 渋谷ハロウィーン

### 1 「渋谷ハロウィーン」

#### (1) 「渋谷ハロウィーン」という名称

「渋谷ハロウィーン」（「渋谷ハロウィン」ともいわれる）とは通称名である。ここで言う「渋谷ハロウィーン」とはイベントではなく、「10月31日に近い週末あるいは31日当時に若者が自然発生的に集まる渋谷でのハロウィーン」を指して言う。なぜここでこうした確認をするかといえば、地名プラスハロウィーン（ハロウィン）の表現はイベント名として、カワサキハロウィン（カワサキハロウィンは1997年から2020年まで実施）のような場合もあるからだ。これはもちろん「川崎」で行われているもので、表記がカタカナで表現されている。小さなイベントでは「渋谷ハロウィーン」と銘打っているものもあるかもしれないが、主催者がある場合には〇〇主催「渋谷ハロウィーン」と表記し、区別したい。

名前を付ける、即ちネーミングは人を集める、集客力の大きな力となっていることは言うまでもないことだ。不動産業界でも多摩川を境に神奈川県川崎市高津区と東京都世田谷区（二子玉川）、神奈川県川崎市中原区と東京都世田谷区（田園調布）では場所や土地名に価値観が出てくる。典型的なのは東京ではないのに、「東京」と冠を付けるケースだ。東京ディズニーランド、東京ドイツ村、新東京国際空港（成田空港）など、枚挙に暇がない。東京都内でも池袋、新宿、原宿、渋谷など知名度の高い場所がある。中でも若者文化ということ念頭に置けば、原宿と渋谷は日本だけではなく、世界でも知られている。「知られている」はインターネットの登場により、またSNSの影響により、活字だけでなく視覚的効果を含め、マスコミが単に取り上げるだけでなく、一般人が自分の感性の基に発信している情報も加わり、以前よりも豊富に、時系列に情報が手に入るようになった。

#### (2) 「渋谷ハロウィーン」の場所

渋谷ハロウィーンの場所をもう少し限定しておこう。渋谷でよく人が集まる

場所として、「ハチ公（周辺）」とスクランブル交差点が象徴的である。この2つは渋谷の象徴を問うアンケートでは圧倒的な数字を表している。しかし、「ハチ公（周辺）」はハロウィーンとは関係なく、渋谷の待ち合わせ場所として定着している。スクランブル交差点は通常は横断する場所であるが、サッカーのワールドカップでのハイタッチや大みそかのカウントダウンなので有名になった場所である。もともとはイベントでなかったものだけに、人出の多さに急きょ歩行者天国となり、またイベント化される場合もある。「渋谷ハロウィーン」で若者が集まるのは基本的には渋谷センター街である。西武ロフトつながる井の頭通りには渋谷センター街のペナントがあちこちに掲げられている。人が多くなれば、文化村通りや道玄坂にも集まるようになる。センター街は2011年9月26日にメインストリートを「バスケットボールストリート」（通称：バスケット通り）と改名しようだったが、その定着度はどうであろうか。改名の理由はこれまでの「汚い、危険」といったような暗くて、汚いイメージを一新するためであったという。しかし、皮肉なことに「渋谷ハロウィーン」が盛り上げりを見せていくのは2009年頃あたりからと言われているが、東日本大震災のあった2011年以降はそれが顕著になってきたと思われる。

「渋谷ハロウィーン」の盛り上がり、騒動はスクランブル交差点での渋谷ハイタッチムーブメント<sup>(1)</sup>やカウントダウンの影響もあってか、隣接しているこの地域に若者が集まって来る。渋谷センター街の特徴は以下のようにまとめることができる。

- (1) スクランブル交差点、道玄坂、文化村通りは道幅もひろく、交通量も多い。また、道玄坂は路線バスの経路になっている。このため、渋谷駅前の待ち合わせ、その後、センター街への移動という流れが出来上がった。センター街は時間帯によっては車両の規制がされている。歩行者優先状態となることがある。
- (2) 公共交通機関としての路線バス区間ではない。
- (3) センター街やその周辺には飲食店だけではなく、東急ハンズ、西武のロフト、MEGA ドン・キホーテをはじめ、いわゆるハロウィーングッズを大量に扱う店があることも見逃せない。

これに加えて、劇場効果がある。コスプレの参加者は一種の出演者であると同時に観客でもあるからだ。「観る側」と「観られる側」が同時に意識する時空に変化しているのだ。

自然発生的に起きた「渋谷ハロウィーン」の一つの対策としてシブヤハロウィーン実行委員会（一般財団法人渋谷区観光協会・株式会社エイチジェイ・株式会社シブヤテレビジョン）が、2016年10月31日（月）代々木公園イベント広場にて『SHIBUYA HALLOWEEN FES 2016 Supported by AbemaTV』を12時～20時（イベント広場及びステージ）に開催した。しかし、プレスリリースされたのは2016年10月26日である。インターネットには20時00分にアップされた。このイベントは継続されなかった。告知された時期もハロウィーン間近であり、時間帯も比較的早い時間帯であったため、結局、このイベント後に渋谷センター街に若者が流れていくことになった。分散させるという意味では効果はあったのかもしれないが、本当の意味で分散させるのではあれば、22時くらいまでは開催していないと難しいだろう。しかし、実際には代々木公園は都立の公園ということから、夜の利用ができないという制約がある。折角の試みも単年で終わってしまった。

渋谷センター街で繰り広げられるハロウィーン騒動で最も被害を受けているのはこのセンター街の飲食店・商店であることは報道等からも伺える。このセンター街には渋谷センター街商店振興組合（小野寿幸理事長）がある。筆者は2018年10月下旬から11月上旬にかけてこの振興組合のHPをチェックしていた。しかし、HPではこのハロウィーンに関して注意喚起は全く掲載されていなかった。しかし、2018年のハロウィーン騒動ではマスコミが小野寿幸理事長へインタビューした。J-cast ニュース「私はなぜ『変態仮装行列』と呼んだのか 商店街トップが語る渋谷ハロウィーンの『惨状』 2018/11/2 13:23」の冒頭を見ておきたい。逮捕者も続出した東京・渋谷のハロウィーンについて、地元商店街のトップが「変態仮装行列」<sup>(2)</sup>とテレビのインタビューで発言し、ツイッター上などで反響を呼んでいる。その発言に至った思いについて、J-CAST ニュースでは、渋谷センター商店街振興組合の小野寿幸理事長（77）に話を聞いた。

「ハロウィン本来の姿ではない」

「ハロウィンではなく、暴動ですね。みな怒り心頭ですよ」。小野理事長は2018年11月1日、取材にこう話した。(中略)

「路地に入って、外でオシッコやウンチをしていくんですよ。店が閉まっているので、エレベーターの周りでする人もいましたね。こうした意味で、ひっくるめて『変態』だということですよ」

ほかにも、ガラスを壊して道路に破片が散らばったり、トイレに物を詰まらせたりして、掃除に数日はかかる有様だという。

商店街では、自衛策として、店を早めに閉めてしまったり、ビンを割らせないようアルコールの販売を自粛したりしている。この影響で、全体の売り上げは、10月27日からの5日間で、3分の1に落ち込み、数億円の損失が出ているようだ。

「来年は、ハロウィンを禁止してほしいという声が圧倒的ですね。責任者がいないので、イベント化するか、それとも禁止するか、2つに1つでしょう。今後、区や警察と話し合いたいと思っています」<sup>(3)</sup>

経営者として当然の発言だろう。筆者がここで思ったことはこのコメントが理事長の個人としてのものなのか、振興会の総意なのかということだ。前述の通り、振興会のHPには何も記載されていない。振興会からの注意喚起等の発信がないのである。振興会の総意なのであれば、HPを通して振興会としての呼びかけができる手段を持っているのが、何も発信していない。ちなみに振興会の役員を当時のHP(2018年)より紹介しておきたい。

理事長

小野 寿幸 (株) 渋谷西村總本店

副理事長

鈴木 達治 (株) 高木本社

専務理事

梅原 秀一 (有) センター建物

松本 幹久 (株) エムズネットワーク  
常務理事  
藤野 宏忠 (株) 蓬莱屋酒店  
瀬戸 英二 瀬戸空間プロデュース(株)  
笠井 明人 坂善商事(株)  
常任理事  
宮川 幸一 (株) 高木本社  
鈴木 大輔 太平洋商事 (株)  
監 事  
野本 昭二 野本商事 (株)  
佐藤 圭司 (株) M2 トレーナー  
理 事  
小林 治 (有) 大松  
遠藤 進一 (株) そごう西武 西武渋谷店  
川田 博之 (株) パルコ  
土屋 光夫 東急不動産(株)  
森田 勝之 (株) 東急ハンズ  
阿部 真由子 合同会社フォーエヴァー21  
清水 悠佑 (株) TSUTAYA SHIBUYA TSUTAYA  
山口 浩一 平和商事 (株)  
土屋 仁 (株) エムズネットワーク  
増田登志子 (株) 増田  
長谷部 洋平 (株) ドン・キホーテ MEGA ドン・キホーテ渋谷本店  
近藤 敏栄 (有) 丸日近藤商事  
中村 三郎 中村ビル<sup>(4)</sup>

「渋谷ハロウィン」は自然発生的で、主催者がいないからと言う理由で10年程度推移していたことなる。しかし、振興会の尽力で渋谷センター街がクリーンなイメージに変わってきたことも事実である。理事長の怒りは最もであるが、渋谷の街は若者で潤ってきたこともまぎれもない事実である。感情的な言葉で

あるが、端的に言えば「利益につながる若者は渋谷に来てください。渋谷にお金を落とさない、迷惑行為をする若者は来ないで下さい。」というメッセージであったという趣旨だ。経営者にとって利益第1と言う考えを否定することはできない。渋谷センター商店街振興組合のHPには「センター街のルールについて」として18項目が取り上げられている。特に3つの項目をここでは紹介しておきたい。

⑧路上において、通行人に対してのナンパ行為を禁じる。

⑫路上及び店舗前において、地べたに座り込んだり（中腰でも）、複数で固まって立ち止まる行為を禁じる。

⑬乗用車、納品者共に全ての車両は、平日は15:00～翌日5:00、日曜祝日は12:00～翌日の5:00まで、センター街への侵入及び駐停車する事を禁じる。<sup>(5)</sup>

ルールを定めること以上に、その内容の実効性についてどの程度まで本気で考えているのだろうか。ルールは周知も必要である。渋谷という街が若者を受け入れているからこそ、若者が集まって来る。

⑧と⑫はセンター街のクリーン化として理解できないわけではないが、若者の街を牽引している街のルールとしてはどうかとの疑問も残る。センター街は今、「容認」から「規制」の方向性に舵を切り始めているかもしれない。現在、この同振興会のHPは全く異なる掲載となっている。

この10年間、センター街をはじめ渋谷区と警察はどのようにこの「渋谷ハロウィン」を考えていたのだろうか。渋谷区も数日前にセンター街の商店等で特にビン類の酒類の販売を自粛するように要請する姿勢を見せた。

渋谷区「コンビニさん、ハロウィンは瓶の酒売らないでください」販売自粛願  
2018年10月24日17:00

東京都渋谷区は、ハロウィーンの31日午後6時から翌日午前6時にかけて、瓶に入ったアルコール類の販売を自粛するよう、渋谷駅周辺のコンビニエンスストア17店舗に求めることを決めた。長谷部健区長が23日の記者会見

で明らかにした。

区は、今年6月にあったサッカー・ワールドカップ日本代表戦3試合でもコンビニ18店舗に同様の要請を行い、7店舗が協力した。

区によると、渋谷駅前のスクランブル交差点では、4年ほど前からハロウィーンの前夜、仮装した若者が大勢集まるようになり、昨年は酒に酔って瓶を割ったりするケースがあったという。<sup>(6)</sup>

この発表はハロウィーンの1週間前である。発表の時期が遅い。しかも渋谷区は4年ほど前からハロウィーン前後に若者が集結することを把握しており、その対応が後手後手になっていることが伺える。「容認と規制」のバランスをコントロールできるのはこの場合には行政としての渋谷区だろう。2018年には暴徒化の末、警察ははじめて機動隊を導入した事態となった。この「渋谷ハロウィーン」を警察の対応だけに期待しているとすれば、それは渋谷という街から多大な恩恵を受けている商店街のとしても本意ではないだろう。若者とどう向き合うのかは新しい渋谷の過渡期である現在、「利益につながる若者は渋谷に来てください。渋谷にお金を落とさない、迷惑行為をする若者は来ないで下さい」が渋谷の在り方となるのだろうか。

### (3) 「渋谷ハロウィーン」の時期

ハロウィーンは10月31日に行われるものであるが、そもそもハロウィーンの時期はいつなのか。先に引用しているが、Tad Tuleja. *Curious Customs: The Stories Behind 296 Popular American Rituals* (1987)では次のような説明がある。

Samhain was ancient Celtic New Year's festival during which human and animal sacrifices were made to the Lord of the Dead (called Saman) and the sun. Celebrated on November 1, Samhain is the original of our Halloween, although the modern holiday also reflects the influence of medieval churchmen, particularly Pope Gregory III, who in the eighth

century designated November 1 as the feast of departed Christian saints. It is as the eve of All Hallows Day, or “Hallow’ s’ en,” that we now observe October 31. <sup>(7)</sup>

サムヘインの祭りは、古代ケルト人の新年の祭りで、この時期には人間や動物のいけにえが死者のサーマンと呼ばれる主や太陽にささげられた。11月1日に祝われるサムヘインの祭りは、こんにちの万聖節の前夜祭（ハロウィーン）の原型である。しかし、同時に現代の祭日は中世の聖職者、とくに8世紀に11月1日をキリスト教の聖人の祭日に選定した法王グレゴリオ3世の影響を反映したものである。ただ現在われわれが10月31日に祝うのは、万聖節の前夜祭、すなわち「ハロウィーン」としてである。<sup>(8)</sup>

10月31日の年中行事が日本ではなぜ長期化の傾向にあるのだろうか。これには消費高度を喚起させるレジャー産業をはじめ、各業界の思惑がその根底にあることを理解しなければならない。拙著『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』（2019）で長期化の原因については次のように分析した。

夏休みが終わり、クリスマスまでの時期で市場をにぎわすことのできるものを利用しようとしていることだ。クリスマスのイベント関係も11月初旬あるいは中旬から始まる傾向にある。七五三の行事はかかなり限定されてしまうため、おそらく業界としては9月中旬から10月の間で活用できるイベント等を探しているところへ、この数年急成長を遂げているハロウィーンが特に目立って来たということだろう。これに加えて、地域振興や地域の活性化という自治体等の動きも加わっている。経済効果のあるものについてはこれを取り込み、活用しようという姿勢である。日本になかったイベント、クリスマス、バレンタイン・デー、さらにはバレンタイン・デーから派生するホワイト・デーが定着してきたのは企業戦略の役割が大きい。また、ウェディング・ドレス、「婚約指輪は給料の3ヶ月分」の定着もブライダル業界の戦略であろう。ハロウィーンの場合には多方面に波及的効果があるため、クール・ジャパン政策によく似ている。いずれの場合にもハロウィーンを活用して集客力を高めていると言った方がよいかのかもしれない。<sup>(9)</sup>

東洋経済記者の菊地悠人は東洋経済 ONLINE「ハロウィーン迷惑行為、渋谷区の対策とは？アンチを味方にして、市場を育てていけるか」(2016年11月7日)で原田曜平の言葉を紹介している。

博報堂ブランドデザイン若者研究所の原田曜平氏は、「10月は若者が楽しめるイベントがこれまでなかった。男女のつながりが必要なバレンタインと異なり、ハロウィーンは友達同士などでも楽しめることが普及した要因」と分析する。<sup>(10)</sup>

ハロウィーンの長期化は9月上旬からハロウィーン・イベントを開始している東京ディズニーランド(以降、TDR)とユニバーサル・スタジオ・ジャパン(以降、USJ)の存在は大きな要因である。

2018の「渋谷ハロウィーン」を例にしてみると、2018年10月20日(土)～10月31日(水)あたりがひとつの時期となろう。特に週末の26日(金)、27日(土)、28日(日)、10月31日(水)が大きなピークではなかっただろうか。渋谷センター街で軽トラックがひっくり返されるという事件が起きたのは28日(日)の午前1時頃であった。前述の通り「渋谷ハロウィーン」では「容認と規制」の問題が背後にあり、この問題の難しさの背後にあるのが時期の長期化である。ワールドカップでのスクランブル交差点でのハイタッチムーブメントや同じくカウントダウンはその日限りで、しかもある特定の時間に集中している。しかし、「渋谷ハロウィーン」は自然発生的な現象であるだけに規制にするにも難しさがある。

#### (4) 意味を喪失した祝祭イベント

「渋谷ハロウィーン」あるいは日本のハロウィーンについて「本来のハロウィーンではない」と言ったコメントが寄せられることが多いが。ハロウィーンがドルイド教を中心に形成されたケルト文化のサムヘインがアメリカに渡り、アメリカナイズされたものが日本に伝わり、日本でさらに変容したが現在の日

本のハロウィンである。従って、日本のハロウィーンを正確に捉えることは難しいのである。<sup>(11)</sup>しかし、ハロウィーンだけでなく、クリスマスをはじめとした外来のイベント化した祝祭日や記念日に、現在意味を求めることが必要なのだろうか。

そもそも、日本の祝祭日や記念日も本来の意味が重視されているとはあまり思えないのである。国民の祝日に関する法律の「第三条」をみておきたい。

「国民の祝日」は、休日とする。

- 2 「国民の祝日」が日曜日に当たるときは、その日後においてその日に最も近い「国民の祝日」でない日を休日とする。
- 3 その前日及び翌日が「国民の祝日」である日（「国民の祝日」でない日に限る。）は、休日とする。

いわゆる「振替休日」が実施されている。1973年の改正より実施されている。1964年に東京オリンピック開催を記念した10月10日の体育の日は10月の第2月曜日となっている。2020年よりは「スポーツの日」に名称変更された。なぜこうした祝祭日の日が移動するのか。それはその祝祭日に本来の意味を重視せず、経済的効果を優先させた結果でもある。現在最も経済効果のある外来のイベントであるクリスマスも若者が流行らせたわけではない。経済効果に注目した商店や産業界が購買力を引き出すような工夫を凝らしながら、特に若者の消費行動に期待したイベントやアイテムを考え出し、定着したものだ。ハロウィーンも同様だ。クリスマスほど若者の行動をコントロールできなかったということだ。クリスマスもハロウィーンもそのイベントを考え出し、ひとつのシステムを作り上げたのは大人の戦略といってもよいだろう。「渋谷ハロウィーン」についてのコメントとして「商業主義になってしまった日本のハロウィーンには、多くの批判がある」<sup>(12)</sup>と解説しているものが多くあるが、この商業主義になってしまった日本のハロウィーンを作り上げたのは若者ではない。むしろ商業主義を推進した商店や企業は若者をターゲットにし、この10年ほどの間にそれは見事に花開いたのがだ、商店や企業の思惑とは異なった盛り上がりや展開を見せたということだろう。若者自身の行動の自制も当然必要だが、本

来であれば、推進者もこの展開の終息や方向転換に尽力すべきではないだろうか。奇しくも新しい2024年に導入される新しい1万円札の肖像画のモデルの渋沢栄一(1840-1931)は「道徳経済合一説」を唱えたが、国の富を渋谷の富と置き換え、「渋谷ハロウィーン」に集まる若者に方向性を示せる企業家・経済人はいないのだろうか。渋谷センター街商店振興組合にはそうそうたるメンバーがいる。

## 2 何故若者は渋谷に集まるのか

### (1) 渋谷と若者

都市論の中で若者と渋谷をファッションをテーマに論じたものがある。渋谷の発展では若者向けファッションを無視することはできないからだ。荒井悠介「Gathering 文化から Sharing 文化へー渋谷センター街のギャル・ギャル男とライブの変遷」(2021)では次のように述べている。

渋谷という場所と、その場所にたむろするギャル・ギャル男の若者の文化について論じていくが、まず最初に、これまで渋谷という場所は訪れる若者にとってどのような存在であったと論じられてきたのかを確認する。吉見俊哉([1987] 2008)は、70年代後半から80年代の渋谷が、西武資本系のパルコによって演出された公園通りを中心として、若者ファッションの街として、「現代的」な役柄を「見る・見られる」(＝演じる)場として機能していたと論じている。

これに対して北田暁大(2002)は渋谷の「脱舞台化」を指摘する。2002年当時の渋谷は、その固有有名がもたらすイメージによって人びとを引き寄せる舞台としてではなく、情報量・ショップの多さと数量的な相対的価値によって評価される「情報アーカイブ」として機能しているという。渋谷は、かつてそこを訪れる若者を牽引するサブカルチャーの儀礼空間、空間的象徴として位置づけられていたが、90年代末ごろよりメディアで喧伝された「ブチ渋谷」と呼ばれる郊外の中規模都市の台頭とともに、以前のように若者たちを引っ張りだすだけのアウラを持ち合わせなくなっている(北田 2002:124-

127)。そして、「<ポスト 80 年代>のシブヤ系たち」は、渋谷という都市の意味やイメージといった象徴的価値に魅かれて来訪するのではなく、単純にただ「便利だから」そこを訪れるのだという（北田 2002:169）。<sup>(13)</sup>

吉見俊哉（〔1987〕2008）とは『都市のドラマトゥルギー——東京・盛り場の社会史』（弘文堂、1987年）、都市のドラマトゥルギー——東京・盛り場の社会史』（河出書房新社、2008年）のことで、（北田 2002）とは『広告都市・東京 その誕生と死』（廣済堂出版、2002年）のことで、その後『増補 広告都市・東京 その誕生と死』（筑摩書房、2011年）が出版されている。

これをファッションというジャンルにこだわらずに見るとどのようなことが言えるだろうか。荒井は結論部分で、次のように述べている。

…渋谷の「脱舞台化」に関する議論の再検討を示唆するものである。

本章でみてきたように、00年代のサー人をはじめとしたギャル系の若者たちにとっての渋谷とは、たんに情報量・ショップの多さ、便利さといったものに限定されない。少なくとも2010年代初頭までは、依然として郊外の中規模都市の若者までも引き寄せる、文化空間としての象徴性をもった都市であったといえる。とくに渋谷のセンター街は、サブカルチャーの儀礼空間、空間的象徴として機能しており、ファッションを通してアイデンティティをかけた上演がなされる舞台にもなっていた。すなわち、パルコ界隈、文化村エリアから渋谷センター街へと渋谷内部の異なる場所に「舞台」が移動したものの、70年代以降、パルコが牽引し、拡大させた渋谷という街の象徴性は、90年代後半以降も、ギャル・ギャル男系サブカルチャーのなかで引き継がれていたのである。00年代、サー人たちは、渋谷センター街に集まり、そして、同じ場所に集まり悪徳性を含む楽しみを求め、そこから威信と将来に結びつく資本と獲得するという Gathering の文化を有していた。しかしながら、10年代に入り、ポジティブなリアリティを SNS 上で共有することに楽しみや威信、および将来的なキャリアの獲得を目指す Sharing の文化が、かつてのギャル・ギャル男のような若者に限らず一般の若者にも浸透すると、彼らは渋谷という舞台から消していった。

ただし、本章では、現在の渋谷という場所が完全に「舞台」ではなくなったと述べることは控えたい。それぞれの頑張りにたむろするサー人たちの姿をセンター街のなかに見つけることができなくとも、ギャル・ギャル男系の系譜に連なる若者たちのなかには頻繁に渋谷を訪れる者もいる。彼らにとって、いまだに渋谷は文化空間の象徴として捉えられており、過去から連続する渋谷という街、場所の象徴性はすぐに失われるものではない。この場所がもつ象徴性がいつまで継続するのかを、今後も注視し続けていきたい。<sup>(14)</sup>

文中にあるサー人とは何らかのサークルに所属している人のことだ。現在、渋谷の再開発中の動きの中で、2019年にスクランブルスクウェアの開業など道玄坂、渋谷センター街の人の流れと二分するような動きも予想される。

また、小川豊武「それでもなお、都心に集まる若者たち—東京都練馬区の若年層への質問紙調査の分析から」（2021）の結論部分でも示唆に富む内容がある。

本章では、都市部に居住する若年層にも「地元志向」が広まりつつある現代において、それでもなお「都心志向」を持つ若者にはどのような特徴があるかという問いのもと、分析をおこなってきた。その際、先行する都市論・若者文化論の成果を踏まえて、若者のファッション文化に着目した。分析の結果、決して少なくない数の若者が依然として「都市志向」を維持していることが確認できた。また数ある趣味文化の中でも、「ショッピング」「海外旅行」「ファッション」といった趣味が「都心志向」と関連を持つことが分かった。単に「マニア」や「おたく」であれどのような趣味でも「都心志向」に結びつくわけではなく、主に女性が選択する傾向が強いこれら3つの趣味が「都心志向」に効果を与えていたのである。さらに、「都心志向」を規定している要因としては、都市を、ファッションを通じた差異化・自己表現の場と捉える「舞台性仮説」よりも、流行やブランドなどが集積した「情報アーカイブ」と捉える「脱舞台性仮説」の方が指示された。<sup>(15)</sup>

では都市は情報アーカイブの場だけの役割野なのかといえそうでもない。そ

これは新しい構想で作られているものには「独特な審美的な様相」<sup>(16)</sup>があるのではないかと小川は指摘している。閉館が発表されているが、ヴィーナスフォートなどがその代表かもしれない。開放的な空間でありながら、SNSとも連動しやすい要素がたくさんある。SNS 映えスポットが渋谷でも新しく誕生している。渋谷の場合には特に「再舞台化」の動きがあるということだ。

轡田竜蔵「ポストアーバン化時代の若者論へ」(2021)では「内向き」「外向き」ということから次のような考察を行っていることも念頭に入れておく必要があるようだ。

若者の消費における「地元志向」と「都心志向」が、そのどちらか一方に収斂しないという論点は、ファッションの消費にとどまらず、グローバリゼーションを背景にした若者の文化に関する志向性を捉えるうえで、普遍的な示唆を与えてくれる。すなわち、一方では、都市部であろうがなかろうか、地元近くの大型商業施設やネットショッピングで事を済ませる「地元志向」の若者の暮らしがある。なるべく移動にコストをかけず、消費生活を楽しもうとする者たちがいる。ところが、その一方で、そういう時代であるとしても、より幅広い選択肢を求めて、地元外に活動範囲を広げようとしている若者たちも少なくない。自分がアクセス可能な地理的な範囲のなかに、居住地域よりも人や物・情報がより多く集積する「場所」があるならば、そこに引き寄せられる力は依然として働く。それが「都心志向」、地方圏からすると「大都市志向」「上京志向」、さらには海外留学等に関心を持つ「グローバル志向」ということになると考えられる。さらには、この「地元志向」と「都心志向」という対立軸は、価値観としての「内向き志向」と「都心志向」、キャリア志向としての「安定志向」と「独立志向」との対立軸とも関連づけることができるかもしれない。<sup>(17)</sup>

轡田のこの論は消費行動のうち、モノ消費の場合には特に注目すべき点があるろう。大型ショッピングモール等が郊外で開業している例が多くなり、こうした傾向は若者だけに限定されない部分もあろう。コト消費の場合にはどうか。イベントのような場合にはいわゆる箱物で行われるものはその都市の規模等に

よっても事情は大きく異なるだろう。

ハロウィーンのような主催者のいない自然発生的に起こるいわゆる渋谷ハロウィーンのような場合にはどうであろうか。そこには劇場効果がまだまだ根強いものがある。渋谷がいわゆる地上グループと高層グループにいずれ分断されるのではないかと筆者は考えている。そこには109を中心にした道玄坂、やセンター街、渋谷パルコ、東急ハンズ、メガドンキを中心に活動するグループ、スクランブルスクウェアやヒカリエといった渋谷駅周辺の高層建築街を中心に活動グループだ。この10年ぐらいが大きく変わるひとつの時期ではないかと思われる。

## (2) 渋谷のハロウィーンとスクランブル交差点

2018年の渋谷でのハロウィーンは例年になく、大きな話題となった。その理由は10月27日～28日にかけて起きた渋谷センター街で軽トラックが横転されるというハロウィーン騒動を象徴する事件だ。この事件をマスコミは大きく取り上げた。<sup>(18)</sup> 何故、渋谷のハロウィーンはこのような騒動となってしまった。場所的には渋谷駅→ハチ公前→スクランブル交差点→センター街という流れがあり、ハチ公前では信号待ちで人があふれ、一気にスクランブル交差点へなだれ込むということになる。また、このスクランブル交差点は2002年の日韓ワールドカップでのハイタッチ現象からはじまり、他にも大晦日のカウンタダウンイベントの開催、それ以外にも映画やマンガの舞台としてもスクランブル交差点が象徴的に理由されている。テレビ局によっては、日常的に渋谷スクランブル交差点を映す定点カメラからの映像を流しているところもある。そしてハロウィーンの季節になるとこの映像が増えていくことがある。いわゆる刷り込み現象的に渋谷ハロウィーン、スクランブル交差点といったことがメディアによって視聴者に固定化されていることもまた事実である。

## (3) 最近の日本のハロウィーン

公共の場で仮装してさらにパレードしてハロウィーンを楽しむイベントが

開催されたのは、1983年に原宿のキディランドが最初と言われている。筆者はすでに「ポップカルチャーとしてのハロウィン」(2017)で海外と日本のハロウィンを比較して、日本のハロウィーンの三大特徴:「第1 長期化の傾向」「第2 仮装の多様化」「第3 イベント化」を指摘した。<sup>(19)</sup>しかし、この傾向はもはや日本だけでなく、世界に波及しつつあるのかもしれない。ここで更に注目しておきたいのは第3のイベント化である。宗教的な本来の意味を失い、仮装し大勢が集まるイベントとなったことだ。

ハロウィーンは元来ドルイド教を中心とするケルト文化で11月1日に祝われたサムヘインの祭りに由来するものであるが、異教徒の祭りがキリスト教に取り込まれ、キリスト教の聖人の祭りとの融合し、さらに、ヨーロッパのハロウィーンがアメリカで変容し、それが日本に受容されたという背景がある。<sup>(20)</sup>日本での大きな特徴はこどもが中心のイベントではなく、若者中心のイベントになったことだ。東京では主催がないが、若者が集まってくるのが渋谷ということだ。

#### (4) 若者を引き寄せる「場」としての渋谷

渋谷には戦前から象徴となるものが誕生していた。1934年にはハチ公銅像が設置され、1948年頃には進駐軍の兵士にラブレターの翻訳・代書をする「恋文の店」が登場し、やがてその周辺は恋文横丁と呼ばれるようになった。では現在もなぜ、渋谷に若者が集まるのか。基点をどこに置くかは難しいが、ひとつには渋谷のシンボリック的存在である TOKYU109 はヤングレディスファッションのトレンドの発信拠点として1979年に文化村通りと道玄坂が合流する元恋文横丁に「ファッションコミュニティ109」としてスタートしたことから始まったのである。渋谷には戦前から映画館があり、1969年にはアングラのジャン・ジャンが、1973年にはパルコがオープン、1978年に東急ハンズ、1989年に BUNKAMURA がそれぞれオープンした。吉見俊哉『都市のドラマトルギー』(1987)でも次のように説明されている。

70年代半ば頃から若者の感性に強い影響を及ぼしていくのが公園通り界限

を中心とする渋谷である。それまでは区役所通りとか職安通りとか呼ばれ、途中のめぼしい建物といえば場末風の映画館、コンクリートの教会、喫茶店がまばらにあるだけのうら寂しい通りにファッション専門のテナントビル、パルコがオープンしたのが 73 年、つづいてパルコ新館、東急ハンズ等の大型店舗の開設が続き、70 年代末までに渋谷の人の流れの重心は道玄坂界限から公演通り界限へと移行する。その結果、60 年代にはやや停滞気味で、賑わいもターミナル周辺に限定されていた渋谷は、「明るく解放的でファッションナブルな街」として若者たちの強い支持を受けていくのだ。<sup>(21)</sup>

ファッションでも新宿、青山と原宿とは違ったファッションを展開している渋谷が誕生するのだ。

西武資本系パルコ進出は、まさにこのような状況を踏まえたものである。同社発行の雑誌『アクロス』は、パルコ以後の渋谷・公園通りの発展を施設面から 3 つの時期に分けている。第 1 期は、パルコが区役所通り（公園通り）中腹にオープンした昭和 48 年から 51 年までの「線開発」の時期。それまで東横・西武百貨店を中心に駅前拠点型だった渋谷の街に、パルコを中継点とすることで、駅から公園通りを経て原宿へと至るルートがつくり出され、このルート沿いにパルコ新館・渋谷ホームズ・東武ホテル・リカビル等が続々と建設されていった。第 2 期は、52 年から 55 年までの「再開発」の時期。東京ハンズ等な店舗が宇田川町側にオープンすることによって、公園通り界限は回遊性を備えるようになる。後述する「スペイン通り」沿いに、中小ビル群が立てられ活性化していくのも頃である。<sup>(22)</sup>

こうした若者が集まる環境が整ってきた上に、1979 年（昭和 54 年）にはファッションコミュニティ 109 (TOKYU109)、1989 年には東急 BUNKAMURA もオープンした。そして、大きな起点となったのが 2002 年の日韓ワールドカップだろう。渋谷駅前のスクランブル交差点で日本代表の試合が終わるとハイタッチする光景が誕生した。相撲でもなく、野球でもなく、サッカーが巻き起こした現象である。<sup>(23)</sup>

しかし、これには前段階がある。スポーツカフェやスポーツバーの存在だ。試合を観戦しながら、食事やお酒が飲めるのだ。試合をモニターやスクリーンで見やすくしているため、人が集まりやすい。日韓ワールドカップを境に渋谷にこうした店が続々とオープンした。それまではいわゆる飲み屋、居酒屋に集まって観戦するというスタイルだった。渋谷にはもともとアルコールを提供する店が多くあるのは周知の通りだ。観戦を目的とした店ではないため、モニターやスクリーンが大きいわけではなく、またモニターなどがない場合もあるかもしれない。

### (5) 自由の象徴スクランブル交差点

日本にはもともとスクランブル交差点はなかった。歩行者天国や斜め横断はもともと日本には無かったのだ。1970年に始まった歩行者天国は一種の自由の象徴的な役割を果たしたと言ってもよいだろう。インターネット上に掲載されている岡本亮輔「なぜ人はスクランブル交差点に集まるのか『世界最大の天国』は日本にあった」では次のように述べている。

なぜほかならぬスクランブル交差点なのだろうか。代々木公園でも良さそうだし、同じく渋谷の金王八幡宮のあたりでも良さそうな気がする。そして、斜め横断を禁止すると、なぜ騒ぎは防げるのか。実は、スクランブル交差点と斜め横断は、戦後、路上が歩行者に解放されるプロセスの起点であり、斜め横断は伝統的秩序に対する挑戦だったのである。<sup>(24)</sup>

特に歩行者天国は日曜日や祝日を中心に実施され、日常空間が一瞬のうちに非日常化する光景が広がった。事件等の影響により歩行者天国は一時中止されていたが、現在では再開されている。渋谷は若者が集まる上に、歩行者天国もスクランブル交差点もある。渋谷の象徴(シンボル)は何かといった意識調査も実施されているが、その結果幾つか紹介しておきたい。

株式会社 oricon ME が調査企画し、2016年4月19日～25日の期間、インターネット調査。全国の800サンプル(10代:46/20代:154/30代:200

／40代：200／50代：200) では次のような結果であったという。

物や場所、施設についての質問です。最も渋谷を象徴するものとしては「ハチ公銅像」が46.3%とほぼ半数の支持を得て1位になりました。2位は29.3%を占めた「スクランブル交差点」で、この2つが抜けた存在になっています。「渋谷の待ち合わせ場所」として最も良いと思うところについても聞いていますが、ここでも「ハチ公銅像」が61.6%と圧倒的な支持を得て1位になりました。<sup>(25)</sup>

マイナビ賃貸も東京都で年齢不問・男女を対象に2017年10月6日～20日の期間で有効回答数300サンプルの結果を次のように発表している。

【質問】〈東京〉“渋谷の象徴”といえば何だと思いますか？

第1位・・・ハチ公銅像：50.0% (150)

第2位・・・駅前スクランブル交差点：25.7% (77)

第3位・・・SHIBUYA 109：11.3% (34)

第4位・・・SHIBUYA TSUTAYA：2.3% (7)

第5位・・・モヤイ像：2.0% (6)

第6位・・・センター街（バスケットボールストリート含む）：1.7% (5)

第6位・・・タワーレコード 渋谷店：1.7% (5)

第8位・・・渋谷ヒカリエ：1.3% (4)

第9位・・・Bunkamura：1.3% (4)

第10位・・・道玄坂：1.0% (3)

※第11位以下は省略<sup>(26)</sup>

このふたつは民間による最近の調査結果を公表したものであるが、その結果は想定通りの内容だ。「ハチ公銅像」と「スクランブル交差点」が圧倒的に差をつけて1位と2位を占めている。このアンケートの後、2019年には渋谷スクランブルスクウェアが新たにオープンしたため、現在では少し順位が変わってくるだろう。また、南後由和インタビュー「渋谷のハロウィンは何の夢を見たか

「スクランブル交差点から考える」(2017年1月6日)では次のように述べている。

そしてもうひとつ、渋谷には興味深い変化が起きています。リオオリンピックの閉会式で流れた東京大会のPR映像は、渋谷スクランブル交差点の場面から始まりましたよね。渋谷スクランブル交差点は東京の都市イメージを代表するスポットとして、近年は国内のみならず世界的に注目されています。そしてその渋谷の変化を端的に表している現象が、ここ数年で話題になっている、ハロウィンです。<sup>(27)</sup>

スクランブル交差点が渋谷の象徴となったのは一体いつからなのか。光岡健次郎他『ザ・渋谷研究』(1989)にはスクランブル交差点は取り上げられているものの、ハイタッチ等には全く言及はない。この時点はこうした現象は無かったとあってよいだろう。高久舞「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」(2013)には1986年以降の新聞記事から渋谷のスクランブル交差点等をキーワードにした表がある。それによれば、1996年6月3日、8月6日にテレビ番組においてスクランブル交差点内で縄跳び等をして道交法違反や書類送検されたとの記事がある。日韓ワールドカップ開催中の2002年7月1日の記事に日本対チュニジア戦のあと、スクランブル交差点でサポーター同士が出合い頭にハイタッチしたという内容を掲載した。その後は南アフリカワールドカップが開催された2010年6月の記事にも日本対カメルーンの後スクランブル交差点でのハイタッチと歓声があったことが報道されている。<sup>(28)</sup>最近では2018年6月にはロシアワールドカップでは日本対コロンビア戦、日本対セネガル戦でもスクランブル交差点は盛り上がったと言う。<sup>(29)</sup>

サッカー以外でスクランブル交差点が盛り上がったのはいわゆるカウントダウンの時である。カウントダウンイベントがいつから始まったのかは定かではない。2001年に一部行われたが、突発的に起きたカウントダウンで大騒動になったのは2009年の大晦日ではなかっただろうか。<sup>(30)</sup>その後は、2015年には渋谷区が大晦日にスクランブル交差点でのカウントダウンを実施した。交差点内でステージを設けた。この時、交差点内には日本人よりも外国人が多

かったと言う。<sup>(31)</sup>

このような流れを見ると、スクランブル交差点が祝祭として集まる場として象徴的な役割を果たしたのは、2002年の日韓ワールドカップということになりそうだ。その後もワールドカップでの日本代表チームの活躍とリンクしながらスクランブル交差点に人々が集結することになったと見てよいだろう。そして、これまで自然発生的に集結していたスクランブル交差点で2015年には渋谷区が中心となりカウントダウンイベントが開催された。<sup>(32)</sup>

さらに、2016年～2017年のカウントダウンでは、渋谷区・地元商店会・エリアマネジメント団体が一体となり「渋谷カウントダウン実行委員会」を組織、スクランブル交差点を歩行者天国にし、約6万7000人が集まった。<sup>(33)</sup> 今後は新しい元号を迎えことや2020年の東京オリンピック・パラリンピックを控えて、こうした盛り上がりはますます拍車がかかることは想定されることだ。

渋谷スクランブル交差点、正式名は渋谷駅前交差点であるが、1973年に誕生した。2023年はスクランブル交差点半世紀であった。

日本国内においては、現在お天気カメラが設置されている一つに駅前スクランブル交差点があり、毎日天気予報でその様子を見る人も多いだろう。また、平成14年、平成22年のFIFA男子W杯での初戦に勝利した際には新聞記事だけでなくニュース映像で使われることがあった。試合勝利を報道するにあたり、近年ではほぼ必ず渋谷に集う人々をレポートしている。新聞記事の文章ではなく視覚によってこの現象を確認することでいっそうその様子がわかり渋谷のスクランブル交差点に行けば人が集まっている、勝利を喜び合えるという期待感を持ちカウントダウン時には「人がいそうだから」という理由でやってきた若い女性や、W杯での勝利時にスクランブル交差点へ目指してやってくる人々がいるのだと考えられる。

「渋谷といえばスクランブル交差点」という意識はかつてよりも広く浸透しており、世界規模でも認められる現代文化の象徴として捉えることができるかもしれない。ただ駅前にあるから、人通りが多い場所だからという理由だけではなく、年越しのカウントダウンやサッカーの勝利時などの現象が起りやすい場所といえるだろう。<sup>(34)</sup>

スクランブル交差点でのハイタッチムーブメントは W 杯に象徴されるサッカーの勝利に見られる。

サッカーの勝利時というのはより明確である。このような行為がみられるのは、サッカーでの試合が勝利した時のみだからである。<sup>(35)</sup>

.....

...多くの人が「試合に勝利した」という認識を持つのは、お揃いのユニフォームと応援歌が多分に影響していると考え。サポーターと言われるサッカー観戦者(愛好家)は応援する際にサッカー日本代表のレプリカユニフォームを着ている。また、応援歌も共通しているため、ユニフォームを着て応援歌を歌っていればそれが目印となって同じ目的(勝利を祝う)を持った者が自然と集まり中心層を作り出していくのである。他のスポーツで集まることはなくサッカーの勝利時のみ突出している理由の一つであろう。<sup>(36)</sup>

こうした指摘は他でも示されている。

ハロウィンと日本代表戦という、スクランブル交差点で繰り広げられる2つの「お祭り」。ともに2010年代初頭から顕在化した動きについて紹介したが、これらのイベントを筆頭に、日本では「観客と演者を行き来しながら楽しむ」「同じような格好をして、対象となるコンテンツを単なるきっかけとして消費しながらお祭り騒ぎをする」「その様子をSNSにアップする」というような行動が一般的となっていった。最近ではクリスマス近辺の街中にもコスプレをした人を見かけるようになり、制服を着てディズニールンドやディズニーシーに行く(現役の高校生でなくても過去の制服を着るなどする)「制服ディズニー」という楽しみ方も定着した。<sup>(37)</sup>

スクランブル交差点についての印象は様々なようだ。スクランブル交差点がぶつからずに人が往来できるのは外国人から見ると独特なようだ。井上和彦と2008年に高校2年生の時来日した春香クリスティーン(父日本人、母スイス

人) 対談で渋谷スクランブル交差点の秘密として次のように述べている。

スクランブル交差点を、われがわれがって自己主張して自分の歩きたいようにだけ歩いていたら、絶対に他の人とぶつかるでしょう。ぶつからないのは、お互いに譲り合ったり空気を大事にしたりする精神、日本人がみんな普通にできる、ささやかな心配りのおかげなんじゃないかと思った瞬間でした。

(38)

そんなスクランブル交差点もハイタッチムーブメント、さらにそれに続く渋谷センター街は渋谷を象徴するスポットになっている。渋谷が象徴的な役割を果たしていたのはハロウィーン以前はサッカーW杯であった。

自分をよく見せるための SNS ネットとしてのフェス。それを下支えするスマートフォンという インフラ。カップルで、友達同士でという「誰かと一緒に」的な価値観。そんな流れが固まって きたのと同じようなタイミングで、日本に新たな「お祭り」が誕生した。それがハロウィンである。

もちろん行事としては海外を中心に昔からあったものであり、日本でも各地のテーマパークで 以前からハロウィンイベントは行われていた。それが 2011 年～2012 年あたりから、突如として「街中での仮装」という形で市中にはみ出してきた。その証拠に、「Google トレンド」で「ハロウィン コスプレ」というキーワードを調べると、2012 年にそれまでの推移とは異なる大幅な伸びを示している (2011 年 10 月→2012 年 10 月の伸びが約 2.5 倍、以降の年の伸びは 約 2 倍、約 1.1 倍、約 1.2 倍、約 1.1 倍)。

そんな「お祭り」のシンボリックな場所が、渋谷のスクランブル交差点である。ここ数年、ハロウィン当日となる 10 月 31 日の 1 週間ほど前からあのエリアは不思議な空間になる。<sup>(39)</sup>

2002 年のサッカーワールドカップ以外には、前述の通りカウントダウンイベントが開催されたことがある。

人々が自然に集団をなすには、作り上げられたイベントではない限り、なにかのきっかけが必要である。そのきっかけとは何であろうか。

1つは年越しである。<sup>(40)</sup>

年越しとはカウントダウンである。当初は自然発生的に起きているカウントダウンも、区が主導してイベント化していた時期もあったが、現在はむしろこれを禁止する立場へと態度を転換した。しかし、今後も小規模のカウントダウン的なものは起きるだろう。サッカーのハイタッチムーブメントやカウントダウンと異なりハロウィーンの最大の特徴はコスプレにある。

スクランブル交差点のハロウィンに仮装して参加する人々は、「演者」でもあり「観客」でもある。何を演じているかという点、「ハロウィンというお祭りにおいてコスチュームを着て騒ぐ人たち」である。ここにはもちろん本来の宗教的な意味合いなど関係ない(ハロウィンの本当の由来を知っている人はほとんどいないのではないだろうか)。そこで演じた結果がSNSに載り、「RT」や「いいねー!」といったSNS上の評価に換算される。<sup>(41)</sup>

渋谷ハロウィーンのコスプレはコスプレヤーがするような本格的なコスプレではなく、もっと気軽な仮装ということになるかもしれない。スクランブル交差点でコスプレした人が騒ぐということではなく、むしろ。渋谷駅からセンター街へ向かう時に、一度信号待ちをして、いざ「センター街へ」というまるで能狂言で言う橋掛かり、歌舞伎の花道的な役割がスクランブル交差点にはあるのではないだろうか。

### 3 地味ハロウィン

自然発生的に10月下旬に起きる渋谷ハロウィーンに見かねて渋谷区も重い腰を上げ、「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」(2019年6月20日施行)も制定されたが、これが原因で地味ハロウィーンが始まったわけではない。地味ハロウィーンは何時頃から始まったのであろうか。齊藤茉莉

「拡まる個人—地味ハロウィン」(2019)には次のように紹介されている。

「地味ハロウィン」とは、数年前からツイッターなどのSNSで、ハロウィンの時期なるとじわじわ「パズ」っているイベントである。2014年に初めて阿佐ヶ谷の Snackbar で開催されたときの名前は「地味な仮装限定のハロウィンパーティー」と呼ばれるようになった。ツイッターやメディアで拡散されるうちに省略され、「地味ハロウィン」と呼ばれるようになった。<sup>(42)</sup>

インターネットにはこの「地味ハロウィン」イベントの様子が2015年以降紹介されているが、これよると2014年に第1回のイベントが開催されたとある。2015年11月7日にアップされたものを見ておきたい。

地味な仮装 160 人のハロウィンパーティー

今年もハロウィンが盛り上がった。

あのムーブメントにちょっと混ざりたい。しかし、ドストレートにゾンビや魔女の格好をするのは恥ずかしい。

そうだ、みんながやらないような仮装にしよう。言われなければ仮装って気づかない、でもわかると「あーなるほど！」っていいくなるようなやつだ。

そして開かれたのが「地味な仮装限定のハロウィンパーティー」である。

地味ハロウィンはまだ2回目

昨年に第1回を行った。昨年はハロウィンというものがよくわかってなかったので、ハロウィンの2日後にやった。

三が日のように幅があっていいイベントだと思っていたのだが、クリスマスのようにその日を過ぎたら一切なしのイベントだったことを知らなかったのだ。

そのようすは昨年も記事にして（「地味な仮装のハロウィンパーティー」）なぜかとくダネ！で紹介された。弊社社員の大島が普段着で来たのに「ラーメン屋店員」と紹介されたのが昨年のハイライトであった。

今年は場所を東京カルチャーカルチャーにした。昨年の会場（Snackbar 貸し切り）から比べると5倍のキャパである。更衣室まで用意した。

更衣室にするためのテントレンタル費用をカルチャーカルチャーが出してくれないので、打ち合わせで「ケチ！」とかスネてたら領収書なくて自腹になった。昔話か。<sup>(43)</sup>

2018年10月28日ものとして「速報！地味ハロウィン2018」が以下のように写真入りでアップされている。

トリックオア地味！

2018年10月27日、今年も地味なハロウィンを開催した。

パリピ化する渋谷のハロウィンとは一線を画す文化系とトンチの祭りである。

「クラスでは目立たないけど話すとおもしろいやつ」（筆者の想像）が集まった。間違いなく全員天才である。

天才たちのようすはツイッターでさんざん流れているので、ここではステージで反応が多かった仮装を紹介したい。<sup>(44)</sup>

2019年10月27日には同じサイトで「地味ハロウィン2019公式速報」がアップされた。

2019年10月27日（日）今年も地味ハロウィンが開催されている。

今年も見覚えがある人たちになりきる仮装、身に覚えがある一瞬を切り取った仮装が集まった。

普通の私たちが、普通の人たちに仮装するイベント。仮装されているのもきっと私たちだ。

ウェイとは無縁の地味なハロウィンをお楽しみください。<sup>(45)</sup>

2018年10月27日にアップされたデイリーポータルZ ウェブマスター：林雄司「大ブレイク「地味ハロウィン」今年も開催！デイリーポータルZ プレゼンツ地味な仮装限定 “地味ハロウィン” 2018 by デイリーポータルZ」によれば、これまでの地味ハロウィンの仮装の例は以下の通りである。

- ・ZOZOTOWN の画像ローディング中に出てくる人
- ・交通量調査してる人
- ・美術館内で椅子に座っている人
- ・ゾンビ映画ですぐ死ぬ人
- ・試食をすすめるデパ地下の店員
- ・路上で絵を売る人
- ・採血が終わったばかりの人
- ・UBER イーツを配達してる人
- ・ライブ会場前で「チケットゆずって下さい」という紙を持った人
- ・「はじめてのおつかい」で子供にバレないように撮影してるスタッフ達 (複数参加)
- ・東急ハンズの店員 (白シャツで緑のエプロンしてるだけ)
- ・ハロウィン時期の中途半端なハロウィンコスプレのファミリーマート店員
- ・いらすとやに出てくる男女
- ・無印良品の店員 (ボーダーかダンガリーシャツを着てるだけ)
- ・ディズニーランド帰りの人 (ディズニーのおみやげ袋を持ってるだけ)
- ・都会ぐらしにうんざりして田舎に来た OL
- ・妊婦なのか太ってるのか分かりにくい人
- ・スーパー銭湯にいる女子グループ
- ・深夜のドンキにいるギャル
- ・仮装大賞の黒子
- ・地域清掃ボランティア
- ・ペンギンの飼育員
- ・国会図書館でコピーを取ってくれる人
- ・宇宙ステーションで地球の子どもたちと交信中の宇宙飛行士。
- ・天然酵母パンのお店の声が小さい店員
- ・元タレントの女性議員<sup>(46)</sup>

2014 年あたりから派手なハロウィーンと反対の地味ハロウィーンもパーティ形

式が行われた。地味とはいわゆるコスプレがキャラクターなどに扮するのではなく、日常生活に密着したものやコスプレや仮装というには「ちょっと」というようなもので、気軽にするという意味のようだ。2014年11月6日にアップされた「地味な仮装のハロウィンパーティー」には地味ハロウィンのルールが掲載されているので紹介しておきたい。

#### ルールはこうだ

お化けなどではなく、実在する人々の仮装をすることにしたのだ。

- ・通常はコスプレの対象になってないコスチュームを着てくる
- ・説明されてようやくわかるものでも OK（高校の現国の山本先生、とか説明されてもわからないものでも OK）
- ・場所はスナック<sup>(47)</sup>

これはあくまでも2014年なものだ。場所はその後変わっているようだ。場所以外は基本的には踏襲されているようだ。

2020年はCOVID-19（新型コロナウイルス感染症）の影響もあり、商店などは早々と「おうちハロウィン」「おうちでハロウィン」と銘打ってハロウィン商戦を行った。4月に発令された緊急事態宣言（4月7日〔東京、神奈川県、埼玉、千葉、大阪、兵庫、福岡〕〔4月16日全国〕～5月25日）を経て、その後も国民自体が自粛モードに入った。GoToトラベル事業もCOVID-19の終息をまたずにwithコロナと称して経済優先に政府が舵を切り、7月22日から開始されたが、これに呼応する国民もいれば、自己判断で様子を見て自粛を続ける人たちと2分した状況であった。さらに地域共通クーポンを付与も10月1日から開始され、GoToトラベルに拍車をかける支援がなされたなか、ハロウィンの時期を迎えたのだ。2020年にはインターネット上には「おうちでハロウィン」なるホームページもおうちでハロウィンプロジェクト実行委員会(有限会社ビッグ・フィッシュ・ストーリー東京営業所内)によって立ち上げられている。

Let's Join!

「おうちでハロウィン」を一緒に盛り上げてくれるお店、募集中！

「おうちでハロウィン」に賛同いただける方、ロゴやポスターを掲示いただけるお店を募集しています。

「おうちでハロウィン」を楽しむグッズ、サービス、アイデアをお持ちの方、是非、共有してください。

2020年のハロウィンをみんなで楽しいシーズンイベントにしていましょ  
う。<sup>(48)</sup>

渋谷駅のシャッターが開いた午前4時過ぎ、始発を待ちわびた「ゾンビ」たちが次々と改札を目指し、騒ぎは収束に向かった。埼玉県草加市の大学1年生土屋友哉さん(19)は「日常とかけ離れた体験ができて楽しかった。午前9時から授業なので寝ないで登校します」と語った。

『朝日新聞』11月2日朝刊第33面

31日夜、スクランブル交差点近くのセンター街は満員電車のように混み合っていた。周辺では思い思いの仮装をした者たちが「一緒に写真を撮ってもらえませんか？」と声を掛け合い、スマートフォンで撮影していた。

東京都足立区の大学生の女性(21)はバニーガール姿。友人2人と来た。「こんなことができるのってハロウィーンくらいじゃないですか？撮りまくってインスタグラムにも写真をあげます」

『讀賣新聞』11月2日朝刊第25面

コラムニストの堀井憲一郎さん(60)は、「区長が言うことは分かるが、とても残念」と話す。「自然発生した若者中心の祭りを大人たちは把握し、管理したいと思っていたところに、先週末トラックが横転させられる事件が起きてしまった」。堀井さんが調べたところ、60年以上前にクリスマスイブに若者らが騒ぎ、問題となっていた。

筆者は2018年の渋谷のハロウィーンの時期にテレビ局への出演と新聞へコメントを寄せるなど、マスコミで発言を行った。

「羽鳥慎一モーニングバード 渋谷ハロウィーン狂想曲の波紋」に出演、コ

メント (テレビ朝日、2018年10月30日)

「主催者なし、ステージのような魔力 渋谷ハロウィーン マナー守って」

(『東京新聞』2018年10月31日朝刊第22面にコメントあり)

「NSスタ ハロウィーン なぜ渋谷がこんな事に？」に出演、コメント(TBS、2018年11月1日)

「モーニングバード」では渋谷ハロウィンの大きな特徴として、主催者がいないこと、長期化を主に取り上げた。1997年より主催者がハロウィンを地域のイベントに成功した事例として、カワサキハロウィンを紹介した。

『東京新聞』では仮装の焦点を絞り、「仮装しているので、普段より思い切った行動をとりやすい。そこに集団心理も相まって、突飛な行動に走る人も出てくるので」<sup>(49)</sup>、人の流れととして「鉄道の相互乗り入れの影響で、渋谷の地盤沈下も懸念されており、規制は避けたいだろうが、このままいけば大変なことになる」<sup>(50)</sup>とコメントした。ここで表現されている「地盤沈下」とは文字通り意味ではない。渋谷がこれまで乗り換えにより滞留していたが、乗り換えなし新宿、池袋に移動できるだけ、人の流れが大きく変わり、渋谷への人出が激減する懸念があるとの意味である。しかも、駅ビルでなく、特に渋谷センター街を指しての内容である。

「NSスタ」では2002年の日韓ワールドカップ以来、渋谷スクランブル交差点でハイタッチムーブメントなどが起きた際に、大きな規制をすることなく、推移したため若者はこれが容認されたため、さらに激化の一途を辿ったこと、マスコミ報道により渋谷の関心を反対に喚起してしまったことを取り上げた。しかし助長された行動は、もはやモラルの問題を超えて、犯罪に発展している、規制の必要性を訴えた。最終的には「容認と規制」のバランスとしてまとめた。

この渋谷ハロウィーンの騒動を思う時、「荒れる成人式」と似ているような印象を持つ。しかし、「荒れる成人式」は主催者、おもに地方公共団体であるが、式典の見直し、警備等の強化などにより落ち着きを取り戻しつつある。<sup>(51)</sup>どちらの騒動もそれを引き起こしているのはごくごく一部の人である。成人式では主催者がいるため、主催者側の努力が実を結んだと言える。

2018年のハロウィーンで印象的であったものを2つ挙げるとすれば、第1

に軽トラックの横転事件、第2に変態仮装行列だろう。特に後者の渋谷センター商店街振興会組合理事長の小野寿幸の言葉である。渋谷ハロウィーンと渋谷センター商店街振興会組合については筆者自身が他で論じているため、ここでは詳細は省くこととする。<sup>(52)</sup>

筆者が渋谷ハロウィーンに関して多大な被害や受けているセンター街や渋谷区のコメントで気になるが、「騒いでいる外から来ている人で、ハロウィーン当日などは売り上げが下がるから商売にならないから来てほしくない」と言った趣旨のものだ。被害を受けている者としてのコメントであるが、単純に同情はできない。なぜなら、センター街をはじめ渋谷という街は、渋谷以外の若者を中心とした人が集まり、ファッションやエンターテイメント、飲食等にお金を落として来たからだ。渋谷を発展させた人も渋谷を混乱に落としているのもおそらくは渋谷以外の人たちということ忘れてはならないだろう。

筆者は「容認と規制」のバランスが最も気になる場所であるが、いわゆる自然発生的誕生した渋谷ハロウィーンの最大の問題は、主催者がいないため規制がかけられないこと集まってきた一部の若者に自制心やモラル感の欠如が目立ったことだ。

渋谷センター商店街は渋谷駅の近くにあること、地下道からすぐに出られること、バス通りでないこと、時間帯により自動車が入れないこと、この周辺にはメガドンキー、東急ハンズ、西武ロフトなどがあることも若者を惹きつけている要因ではないかと思える。原宿の竹下通りにも似たような傾向がある。渋谷は若者の街として定着し、2002年の日韓ワールドカップのスクランブル交差点でのハイタッチムーブメント<sup>(53)</sup>がすべての起点であったように思えるのだ。以降、この若者の行動は「容認」されたからだ。日本は概して、規制することに躊躇い、対策が遅れることが多い。このことは昨今の新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における緊急事態宣言をはじめ、不要不急の外出禁止、県外への移動自粛などを見れば明らかだ。日本は法律による規制ではなく、人に迷惑をかけないという日本人の強い意識に頼っての対策が主である。おそらく渋谷ハロウィーンについてもこの「人に迷惑をかけない日本人の強い意識」に頼っていたことと、強い規制をかけることで、行政が苦情や抗議を言われることに対して強い嫌悪感を持っていることが実は大きな原因ではなかったと

も思えるのだ。この背後にマスコミの報道の論調が大きく影響していることは言うまでもないことが、2002年の日韓ワールドカップにはじまり、渋谷スクランブル交差点でのハイタッチムーブメントを容認してきたことが過熱を高め、さらに若者を渋谷へ集めてしまった大きな要因ではなかったのではないだろうか。

2019年のハロウィーンに向けての動きを簡単に紹介しておきたい。

- 2月27日 第1回渋谷ハロウィン対策検討会開催
- 5月15日 中間報告公表
- 6月19日 「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」が成立
- 9月25日 ハロウィン対策費1億292万円を補正予算に計上、可決
- 10月7日 コンビニやMEGAドン・キホーテなど41店舗に対して、アルコール類の販売自粛要請を正式に開始
- 10月19日 センター街において「SHIBUYA PRIDE SHIBUYA HALLOWEEN」と書かれたマナー啓発広告の設置開始

「渋谷駅周辺地域の安全で安心な環境の確保に関する条例」について区外の来訪者に制限をかける地域や時間帯をどう周知していくのか、罰則がなく、「指導」と称してどこまでできるのかはむしろこれからが試されることになる。

「容認」すればそれは学習体験となり、同じことを繰り返し、さらに若者はもう一步踏み込んでいくことだろう。多くの若者がこれまで同様「人に迷惑をかける」行動をとるだろうが、COVID-19に対する緊急事態宣言を見ても、もはやこの考え方に頼るには限界があるのではないだろうか。それは若者だけではない。緊急事態宣言下でも生活のために営業する夜の街のホストクラブをはじめ、パチンコ屋、そこを利用する人達、行列を作る人達の姿を見る時、ハロウィーンに集まって来る若者とあまり大きな違いはないのではないかとも思える。

渋谷ハロウィーンの荒れる若者の姿は現代日本のまさに縮図とも言える。バレンタイン・デーになると、加熱するため学校にチョコレートを持って来て、

渡すことを禁止してるところもあるという。ネット上でも小中高校の生徒がおそらく投稿し、それが記事やニュースになっている。<sup>(54)</sup> <sup>(55)</sup> <sup>(56)</sup> この類のものはいくらでも探すことができる。会社ではいわゆる義理チョコ問題が発生している。日本ではチョコレートの売り上げるためにモロゾフが始めた習慣だ。つまりビジネスとして新しい販売商戦として繰り出したものだ。大人がビジネスと持ち込んだ習慣が知らない間に子どもや若者に定着し、その付けを払うのは行政や学校現場と言うことになっているのが現状だ。子どもや若者をターゲットにした戦略は見事に、いや想像越えて定着し、コントロールが難しい状態にまで成長した。2024年度の新しい1万札の顔になる渋沢栄一(1840-1931)が『論語と算盤』(1916)中で「道德経済合一説」を唱えたが、最近ではCSR(Corporate Social Responsibility)が問われるようになった時代だ。

ハロウィーンを推し進めた企業にCSRを求めるわけにはいかないが、若者には自制を求めなければならない。しかし、楽しさや楽しみ方を若者に与え、教えた社会は若者を「変態仮装行列」と揶揄し、ようやく条例を定め規制に乗り出したが、ゾンビのように意志のないこの群衆をどう導いてくのだろうか。「容認」から「規制」への舵取りは一過性のものではなく、継続的に行うことが必要だ。

#### 4 松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎』(2019)

松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』(星海社、2019年9月)では2018年の渋谷でのハロウィーン騒動が大きく扱われている。その内容は以下の通りである。

はじめに

若者じゃない人のための若者用語集

第1部 ハロウィンのイマ

第1章 悩める街—渋谷ハロウィーン

第2章 子に引き継がれる続く伝統—カワサキハロウィーン

第3章 繋がるコスプレイヤーの情熱—池袋ハロウィーン

	第4章 拡まる個人—地味ハロウィン
	第5章 薄まる集団—再び、渋谷ハロウィン
第2部	ハロウィンのカコ
	第6章 祭りの始まり—ケルトからアメリカへ、カブからカボチャへ
	第7章 祭りの輸入—アメリカから日本へ、カボチャが軽トラに
第3部	ハロウィンのサキ
	第8章 ハロウィンの景色がどう変わったか?—座談会
	第9章 なぜ日本でハロウィンがここまで大きなイベントになったのか?—まとめ
	参考文献一覧
	あとがき
	年表

穂積由「はじめに」で本書の内容が明らかにされている。

この本は、ジャパニーズハロウィンの謎を解き明かすことを目的としている。なぜ日本でハロウィンがここまで大きなイベントになったのか?—橋大学商学部でマーケティングや消費者行動を教える松井剛教授のゼミの15期生が、この問いに取り組むために現地調査と分析をおこなった。<sup>(57)</sup>

ここでは特に2018年の渋谷でのハロウィンに注目することになる。また、コスプレ、そしてこれをインスタへアップするなどについても次のように述べている。

…「印象操作」といったこのような消費者行動論のキーワードを「サーチライト」として勝王することで、ジャパニーズハロウィンという現象の不思議を解き明かすことを目指している。<sup>(58)</sup>

よそ原なつめ「悩める街—渋谷ハロウィン」では、渋谷ハロウィンの特殊性に

ついて、渋谷区役所広報コミュニケーション課長の杉山氏へのインタビューでの内容は示唆に富むものがある。

杉山「私が知る限りでは、31日の夜にイベントを開催している自治体はないんじゃないでしょうか。私の感覚では、10月に入って徐々に色々な業界のハロウィン熱が温まってきて、衣装を買ったけれど1回しか着ないのはもったいない、じゃ最後31日に渋谷へ行こう、という流れになっていると思います。実際に渋谷に来ている人たちに聞いてみると、前の週の週末は川崎に行っていたという人もいました。そういう風に温まった人たちが、最後に渋谷へとやってくる。渋谷が荒れてしまうのは、全国の他の都市で盛り上がってきた人たちを最後31日に一手に吸収しているから、という側面もあると思っています」<sup>(59)</sup>

荒れるハロウィンの要因を考える上では次の考え方も抑えておく必要がある。

…仮装してハロウィンを楽しむ人と、仮装などせずハロウィンに乗じて騒ぎたいだけの人、という2つのセグメントを分けて考えなければならない、ということだ。後者は、0時を過ぎてからセンター街で酔っ払って喧嘩をするような人である。<sup>(60)</sup>

こうしたことがあるため、敢えてこのハロウィンの時には店を閉めるという状態さえあるが、もう一つの要因も大きいのではないだろうか。

渋谷ハロウィンは地域経済への貢献がない<sup>(61)</sup>

コスプレについては費用をかけず、しかも現地で買うよりも準備してきたものを利用、飲食もできるだけ現地でしないということになれば、渋谷での経済活動は少ないものになる。経済効果がない上に荒れるため、反対に店にはマイナス要因が大きいということにもなりかねない。もちろん、是もオーバーツーリ

ズムになってしまうことを来訪者がわかっているために始めから、経済活動を中心に考えておらず、参加型で渋谷に行くという行動になっている可能性もある。しかし、ここで考えなくてはならないことは経済的な効果がないから渋谷に来てほしくないという主張を渋谷センター商店街の理事長自身がインタビューなどで吐露していることをどうとらえるかだ。

ハロウィン当日のセンター街の売り上げは普段より大きく下がるといい、今では18時以降は路面店を閉めているそうだ。ハロウィンには経済効果があるのもったいない、という論調を、小野理事長は「あんなのマイナスには経済だよ」と一蹴した。センター街の店舗の従業員も、店から駅まで行くのが難しく、帰るのに困っているという。

0時までには帰宅するよう渋谷区が訴えかけても、皆、終電で渋谷にやっけてしまう。イベント化・ルール化して抑えようという動きもあったそうだが、参加者たちは結局イベント後にセンター街に集まってくるだろう、というのが小野理事長の見解だ。<sup>(62)</sup>

渋谷は若者が育てた街であることをどう考えるか。筆者はこの点も無視できないのではないかと考えている。しかしまた、センター街コントロール不能になっていることも事実だ。

「渋谷センター商店街振興組合 マイナスの経済効果の被害者」のインタビューでは小野理事長の内容が掲載されている。センターが荒れ、スクランブル交差点で騒動が起きるきっかけはいつであったか。

このようにセンター街が荒れる中、スクランブル交差点で騒乱が起きるようになった歴史は99年のカウントダウンイベントから始まる。<sup>(63)</sup>

その後は、2002年の日韓サッカーワールドカップでのハイタッチへと続く。つまりカウントダウン、サッカー、ハロウィンといったイベントが渋谷で行われ、ここにスクランブル交差点が象徴となり、さらにそれがセンター街へも波及したのである。「渋谷ハロウィンはもはや一つの観光地」<sup>(64)</sup>となっている。

これは意図せず起きた現象でもある。渋谷ハロウィーンでの特徴のひとつにコスプレの多様化があげられる。それは単にコスプレをする、あるいはコスプレしている様子を見る、発信するなど SNS 時代を象徴した姿である。

コスプレはキャラクターへの愛情表現や自己のアイデンティティの一部を構成する活動であると同時に、同じコスプレをする者どうし、仲間と繋がり、絆を築く行為そのものなのかもしれない。ソーシャルネットワークが発展している今、「COSPLAYERS ARCHIVE」というコスプレ専用の SNS も登場している。SNS に自身のコスプレ写真をアップし、オンライン上でやりとりした人とオフラインの現場で会って仲良くなったり、自分よりもレベルの高いコスプレ写真をあげている憧れの人に話しかけたり、なんてこともできる時代である。<sup>(65)</sup>

2018 年の渋谷ハロウィーンを中心に現地でのインタビューなどの報告も含めたものだ。ハロウィーンも COVID-19 の影響がなくなってきた 2023 年秋からどのような展開を見せるか動向をみていきたい。

## 5 波及する渋谷化現象

ハロウィーンになるとマスコミが「今年の渋谷ハロウィーンは」という報道がここ数年必ずある。そこではスクランブル交差点、センター街の過去の映像が流され、2018 年の軽トラ横転がその象徴となっている。

渋谷と同様に夜の町としては六本木や新宿歌舞伎町がある。両者ともに外国人が多いのが特徴だ。「東京 street! 第 55 回 ハロウィーンの六本木」(『創』第 42 巻第 10 号、12 月号、2012 年 11 月) では写真が中心であるが、次のような記事がある。

最近、「六本木化」が進みつつあると言われるのが、新宿歌舞伎町だ。外国人、特に黒人が急速に増えた。

ここに揚げた写真は、その黒人同士のケンカのシーンだ。発端は右上、黒

人女性に男性が殴りかかっていたということだった。それを見て、仲間らしい黒人グループが飛び出してきて、あっという間に乱闘になった。ついには警官隊が出動。一時は騒然となった。

今回のケンカは黒人同士だったが、黒人と白人の小競り合いをする光景も珍しくない。新宿はいま急速に国際化しつつあるのだ。<sup>(66)</sup>

こうした光景はハロウィーンの時期だけではないが、人出が多くなれば、それだけトラブルもまた増えるというものだ。「東京 street!第 85 回 ハロウィンの六本木」(『創』第 46 巻第 1 号、2 月号、2016 年 1 月)では次のような記事がある。

やはり一番盛り上げるのはそのクライマックスの夜の六本木や渋谷の街だ。ここに挙げたように怪しげな大人のムード満載なのだ。もちろん、喧嘩も発生し、警察官が駆け付ける事態も。「このクレイジーな感じがやはり渋谷、六本木ですよ」。篝さんが語る。

「一番驚いたのはタクシーの運転手さんが仮装していたことですね」<sup>(67)</sup>

篝さんとはこの東京 street シリーズの写真を担当する篝一光である。写真で通常の新聞などで掲載されるよりももっと過激で下派手な仮装写真が掲載されている。

では東京近辺以外の地域はどうであろうか。この時頭をよぎるのはプロ野球で優勝が決まった時の様子である。大阪なら道頓堀川にかかる戎橋付近だろうか。グリコの巨大なネオンサイン、かに道楽の看板などが印象的だ。この近辺には大丸心斎橋店、H&M、ディズニストアーやサンリオギャラリー、PABLO などが狭い地域に密集している。インターネット上の記事、畑中章宏「関東人が知らない『大阪ハロウィン』～渋谷とはココが決定的に違う」(2017 年 10 月 31 日)では次のような指摘がある。

ハロウィンのコスプレをした若者たちは、次から次に記念写真を求めてくる外国人観光客に応じて、グリコサインを背景にポーズをとる。ハロウィン・

コスプレーヤーに取材したところ、一緒に写真を撮ろうと声を掛けてくるのは、9割から6割で外国人だという。

そのほか大阪ハロウィンの特徴らしいのは、仮装者がそれほど回遊しない点である。なかには戒橋から御堂筋を渡ったところにある「アメリカ村」に移動すると答えたコスプレーヤーも何組かいた。

東京渋谷のハロウィンは、大小の通りが交差し、明るい道から暗い薄暗い路地へと、ゆるやかな起伏をそぞろ歩くことが、特徴であり魅力とみられた。こうした遊動性は大阪のハロウィンには少ないのである。<sup>(6.8)</sup>

渋谷センター街の遊動性は原宿の竹下通りと同じ光景だ。ハロウィーンの時期だけでなく、ショッピングなどに来る若者はそもそも遊動性、あるいは回遊魚のように同じエリアを回遊することに特徴がある。

また、どのくらいの影響があるかはわからないが、東京にはTDL、大阪にはUSJとまさに東西を代表するテーマパークがあるが、TDLのハロウィーンはディズニー関係でしか大人は仮装できないが、USJにはこの制限はない。

事前の調査でも、大阪でハロウィンが最も盛り上がる場所は、「繁華街とちごて、USJ ちゃうんか」という答えを何人もから得ていた。

「ユニバーサル・スタジオ・ジャパン (USJ)」で開業翌年の2002年(平成14)以来、毎年開催されているハロウィン・イベントはたしかに、日本を代表するハロウィン会場であるらしい。

USJのハロウィン・イベントが誇れる最大の理由は、東日本を代表するテーマパークである東京ディズニーランドがハロウィンの時期でも、ディズニー・キャラクター以外の仮装を認めていないのに対し、コスプレを幅広く許可している点にある。<sup>(6.9)</sup>

朝日新聞DIGITALの伊藤恵里奈・鶴信吾「ハロウィーン仮装、大阪は「鬼滅」目立つ 渋谷は激減」(2020年10月31日)では次のような記事が掲載されている。

「ハロウィーン目的で渋谷に来ないで」と区長が呼びかけた東京都渋谷区。午後7時すぎから、渋谷駅前には混雑したが、仮装姿はまばらだった。妖怪の格好で友人と訪れた埼玉県的女子高校生（16）は「コロナについてはあんまり考えなかった。ハロウィーンだし、コスプレしたかった」と語った。

渋谷駅前のスクランブル交差点付近には警察車両が並び、警察官が「車道に出ないでください」などと呼びかけ、民間警備員も道行く人に立ち止まらないよう促していた。警戒にあたっていた区職員は「仮装をしている人は昨年の数%程度では」と語った。

一方、大阪・道頓堀は午後7時を過ぎると、仮装した人や見物人でごった返した。人気漫画「鬼滅の刃」のキャラクターに扮した人が目立ち、互いに写真を撮り合っていた。仮装した人たちで混雑した名古屋市の中心部では、一部で入場が規制される場面もあった。

「マスクを着けた仮装など、コロナ時代のコスプレを楽しんでほしい」と呼びかけた福岡市では、繁華街・天神の公園に仮装した多くの人が集まり、夜には移動が難しいほどの人だかりに。大声で歌ったり叫んだりする人もいた。<sup>(70)</sup>

テレビ西日本『『注目を浴びたかった』 ハロウィーンで全裸に 男を逮捕 福岡市の公園』（2020年11月1日）では次のような報道があった。

ハロウィーンの10月31日夜、福岡市天神の公園には仮装した若者が多く集まり、注目されようと全裸になった20歳の男など、2人が逮捕されました。

福岡県古賀市の自称・会社員の男（20）は10月31日午後9時15分ごろ、福岡市天神の警固公園で、全裸になった疑いがもたれています。

警戒中の警察官が、公然わいせつの現行犯で逮捕しました。

調べに対し男は「ハロウィーンで、たくさん人が来ていたので、注目を浴びたかった」などと話しているということです。<sup>(71)</sup>

「一時入場制限も ハロウィーンで今年も仮装した多くの若者らが集まる

名古屋・栄のオアシス 21」(2020 年 10 月 31 日)でも次のような記事が掲載されている。

ハロウィーン当日となった 31 日、名古屋・栄のオアシス 21 には仮装した若者らが集まり、施設が入場を制限するなどの対応をとりました。

毎年、オアシス 21 の「銀河の広場」には、ハロウィーン当日多くの人が集まり混雑します。

迷惑行為が多く発生するため、オアシス 21 では今年、通常の約 10 倍となる 55 人の警備員を配置するとともに、多くの店舗が午後 6 時に閉店する対応をとりました。

今年も、日が暮れるとともに、仮装した多くの若者らが集まり始め、オアシス 21 では、密集や危険を避けるために設定した混雑の基準を超えると判断し、午後 7 時すぎに、出入り口で警備員らが入場を制限しました。

また、警察にも協力を要請し、警察官が、通行を整理するなどの対応に当たりました。<sup>(72)</sup>

2020 年のハロウィーンはこれまでと違った傾向がある。何とんでも COVID-19 の影響である。これにより 2 つの方向性に分かれたと言ってもよろう。

第 1 に自粛、あるいはおうちハロウィーンのようにハロウィーンは楽しむにしろ若干控え目になったという側面である。そもそも街に繰り出さない、できるだけ家にいるという傾向。中にはバーチャルハロウィーン、オンラインハロウィーン、リモートハロウィーンが実施されたところもある。

また、街に出かけるにしろ、コスプレはしないで夜の街を回遊した行動パターンである。これにはコロナ禍の中であまりはしゃぐことに罪悪があること、あるいは周囲の目が気になるという傾向だ。コスプレの衣装は持っては来ても実際には着ないなどの周囲との同調を重視した行動パターンだ。

第 2 はコロナ禍での自粛生活に疲れ、ここではしゃぎたいという若者の行動である。若者の意識のには政府が GO TO トラベル、GO TO イート、GO TO イベントなど経済活動を優先する政策をとっていることが拍車をかけている

と考えられる。

4月の緊急事態宣言下でも営業を続けるパチンコ店、その店に人が殺到している様子を見るとハロウィーンに群がる若者を一概に非難することはできない。もちろん、迷惑行為や犯罪行為は許されるべきではないが。

もはやハロウィーン騒動は渋谷だけの問題ではない。主催者なしのなんとはなしに集まる若者のハロウィーンは全国に波及していると言ってよいだろう。

## 注

- (1) 「ハイタッチムーブメント」という言葉自体はすでに存在しているが、ここでは特に渋谷という限定をつけ「渋谷ハイタッチムーブメント」（おもにワールカップで日本代表の活躍とリンクして、渋谷スクランブル交差点の夜に見られる現象）と今回、佐々木が命名した。
- (2) 小野寿幸理事長は2018年10月30日放送の「ひるおび」のインタビューで「変態仮装行列」との発言があり、この言葉が以降のメディアやネット上で注目を浴びた。
- (3) J-cast ニュース「私はなぜ『変態仮装行列』と呼んだのか 商店街トップが語る渋谷ハロウィンの『惨状』」2018/11/2 13:23)  
(<https://www.j-cast.com/2018/11/02342769.html?p=all>) (2019年4月19日アクセス)
- (4) 「役員紹介」(<http://center-gai.jp/about01.asp>) (2018年11月1日アクセス)
- (5) 渋谷センター商店街振興組合「センター街のルールについて」(<http://center-gai.jp/rule.asp>) (2019年4月21日アクセス)
- (6) 「渋谷区『コンビニさん、ハロウィンは瓶の酒売らないでください』販売自粛願ひ」(2018年10月24日17:00)  
(<http://oryouri.2chblog.jp/archives/9929627.html>) (2019年4月21日ア

クセス)

- (7) Tad Tuleja. *Curious Customs: The Stories Behind 296 Popular American Rituals* (Harmony Books, 1987), pp.170
- (8) タッド・トレジャ/北村弘文訳『アメリカ風俗・慣習・伝統事典』(北星堂書店、1992年3月)、pp.273-274.
- (9) 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』(武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2019年5月)、p.1930.
- (10) 菊地悠人「ハロウィーン迷惑行為、渋谷区の対策とは?アンチを味方にして、市場を育てていけるか」  
(<https://toyokeizai.net/articles/-/143584>) (2019年4月18日アクセス)
- (11) 大久保衣純「日本のハロウィーン受容:カワサキハロウィン 2014年の実態調査から」(『國學院雑誌』第116巻第11号、國學院大學、2015年11月)、p.18.
- (12) 「渋谷区「コンビニさん、ハロウィンは瓶の酒売らないでください」販売自粛願ひ 2018年10月24日17:00」  
(<http://oryouri.2chblog.jp/archives/9929627.html>) (2019年4月21日アクセス)
- (13) 荒井悠介「Gathering文化からSharing文化へー渋谷センター街のギャル・ギャル男とライブの変遷」(木村絵里子他編『場所から問う若者文化ーポストアーバン化時代の若者論ー』晃洋書房、2021年3月)、p.48.
- (14) Ibid., pp.64-65.
- (15) 小川豊武「それでもなお、都心に集まる若者たちー東京都練馬区の若年層への質問紙調査の分析から」(木村絵里子他編『場所から問う若者文化ーポストアーバン化時代の若者論ー』)、pp.88-89.
- (16) Ibid., p.89.
- (17) 轡田竜蔵「ポストアーバン化時代の若者論へ」(木村絵里子他編『場所から問う若者文化ーポストアーバン化時代の若者論ー』)、p.172.
- (18) 筆者は2018年のハロウィンについて次のマスコミにおいてコメントを述べた。  
・「羽鳥真一モーニングバード 渋谷ハロウィーン狂想曲の波紋」(テレビ朝

- 日、2018年10月30日) に出演。
- ・「主催者なし、ステージのような魔力 渋谷ハロウィーン マナー守って」(『東京新聞』2018年10月31日、朝刊第22にコメント)
  - ・「Nスタ ハロウィーン なぜ渋谷がこんな事に？」(TBS、2018年11月1日) に出演、コメント。
- (19) 佐々木隆「ポップカルチャーとしてのハロウィン」(『武蔵野学院大学日本総合研究所研究紀要』第13輯、武蔵野学院大学日本総合研究所、2017年3月)、pp.2-3.
- (20) 佐々木隆『ポップカルチャーとオタク文化の微妙な関係 増補版』(武蔵野学院大学佐々木隆研究室、2019年5月)、p.1920.
- (21) 吉見俊哉『都市のドラマトウルギー—東京・盛り場の社会史—』(弘文堂、1987年7月)、pp.288-289.
- (22) Ibid., pp.291-292.
- (23) 高久舞「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」(石井研士編著『渋谷の神々』雄山閣、2013年2月)、p.317.
- (24) 岡本亮輔「なぜ人はスクランブル交差点に集まるのか『世界最大の天国』は日本にあった」(<https://president.jp/articles/-/25477>) (2019年4月13日アクセス)
- (25) 『「渋谷に関する意識・イメージ調査」~最も多くの人々が持つ渋谷のイメージとは~』(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000044.000007103.html>) (2019年4月13日アクセス)
- (26) 『「渋谷の象徴」といえば何? 1位ハチ公、2位駅前の●●』(<https://chintai.mynavi.jp/contents/ranking/20171206/r246/>) (2019年4月13日アクセス)
- (27) 「渋谷のハロウィーンは何の夢を見たか—スクランブル交差点から考える」(2017年1月6日) (<https://synodos.jp/intro/18813>) (2019年4月15日アクセス)
- (28) 高久舞「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」(石井研士編著『渋谷の神々』雄山閣、2013年2月)、pp.318-323.

- (29) 「日本W杯初戦で歴史的勝利！渋谷スクランブル交差点は何時までっ盛り上がった？」 (<https://www.fnn.jp/posts/00326710HDK>) (2019年4月15日アクセス) / 「興奮の渋谷スクランブル交差点＝サッカーW杯」 ([https://www.youtube.com/watch?v=HCuj3hPC3\\_I](https://www.youtube.com/watch?v=HCuj3hPC3_I)) (2019年4月15日アクセス)
- (30) 石井研士『渋谷学』(弘文堂、2017年4月)、p.49.
- (31) Ibid., pp.44-45.
- (32) Ibid., p.44.
- (33) 「渋谷で六万七〇〇〇人がカウントダウン！スクランブル交差点は初の『歩行者天国』に」 (<https://www.walkerplus.com/article/97146/>) (2019年4月16日アクセス)
- (34) 高久舞「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」、pp.320-330
- (35) Ibid., p.332.
- (36) Ditto.
- (37) レジー『夏フェス革命 音楽が変わる、社会が変わる』、pp.191-192.
- (38) 春香クリスティーン「渋谷スクランブル交差点の秘密」(『正論』通巻535号、産経新聞社、2016年6月)、pp.311-312.
- (39) レジー『夏フェス革命 音楽が変わる、社会が変わる』、pp.186-187.
- (40) 高久舞「渋谷の《祝祭》—スクランブル交差点につどう人々—」、p.331.
- (41) レジー『夏フェス革命 音楽が変わる、社会が変わる』、p.189.
- (42) 齊藤茉莉「拡まる個人—地味ハロウィン」(松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』)、p.157.
- (43) 「地味な仮装 100人のハロウィンパーティー」(2015年11月7日) (<https://dailyportalz.jp/kiji/151107195004>) (2020年10月14日アクセス)
- (44) 「速報！地味ハロウィン2018」(2018年10月27日) (<https://dailyportalz.jp/kiji/jimi-halloween-2018>) (2020年10月14日アクセス)
- (45) 「地味ハロウィン2019公式速報」(2019年10月27日) (<https://dailyportalz.jp/kiji/jimihalloween2019report>) (2020年10月14日)

アクセス)

- (46) 林雄司「大ブレイク「地味ハロウィン」今年も開催！デイリーポータルZプレゼンツ地味な仮装限定 “地味ハロウィン” 2018 by デイリーポータルZ」(<http://tokyocultureculture.com/event/general/25833>)  
(2020年10月14日アクセス)
- (47) 「地味な仮装のハロウィンパーティー」(2014年11月6日)  
(<https://dailyportalz.jp/kiji/141106165548>)(2020年10月14日アクセス)
- (48) 「おうちでハロウィン」(<https://www.ouchidehalloween.com/index.php>)  
(2020年10月14日アクセス)
- (49) 「主催者なし、ステージのような魔力 渋谷ハロウィーン マナー守って」(『東京新聞』2018年10月31日朝刊第22面)へのコメント
- (50) Ditto.
- (51) 林猛「成人式の変容とその展望—時代の変革を受けて」(『日欧比較文化研究』第5号、日欧比較文化研究、2006年4月)、pp.53-58.
- (52) 佐々木隆「渋谷のハロウィンとスクランブル交差点」(『むらおさ』第30号、2019年7月)、pp.8-20./佐々木隆「渋谷ハロウィンから見えるもの」(『日欧比較文化研究』第23号、2019年10月)、pp.51-68.
- (53) 佐々木隆「渋谷ハロウィンから見えるもの」、p.53.
- (54) 「学校でバレンタインチョコ受け渡し禁止ルール。破ったらどうな…」  
(2017年1月28日 18:00 | ウーマンエキサイト)  
([https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid\\_E1485397246201/pid\\_2.html](https://woman.excite.co.jp/article/lifestyle/rid_E1485397246201/pid_2.html)) (2020年7月9日アクセス)
- (55) 「バレンタインが禁止の学校が増えているとは一体？」(2016-01-27)  
(<http://dokujino.hatenablog.com/entry/2016/01/27/011223>)  
(2020年7月9日アクセス)
- (56) 「学校にバレンタインチョコは持って行けない？」  
(<http://education.mag2.com/otaku/bn157.html>)  
(2020年7月9日アクセス)
- (57) 穂積由「はじめに」(松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』)、pp.7-8.

- (58) Ibid., p.11.
- (59) 吉原なつめ「悩める街—渋谷ハロウィン」(松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』)、p.44.
- (60) Ibid., p.49.
- (61) Ibid., p.51.
- (62) Ibid., p.60.
- (63) Ibid., p.57.
- (64) Ibid., p.66.
- (65) 向井暉「繋がるコスプレイヤーの情熱—池袋ハロウィン」(松井剛編『ジャパニーズハロウィンの謎 若者はなぜ渋谷だけで馬鹿騒ぎするのか?』)、p.135.
- (66) 「東京 street!第 55 回 ハロウィンの六本木」(『創』第 42 巻第 10 号、12 月号、2012 年 11 月)、pp.18-19.
- (67) 「東京 street!第 85 回 ハロウィンの六本木」(『創』第 46 巻第 1 号、2 月号、2016 年 1 月)、Ibid., pp.8-9
- (68) 畑中章宏「関東人が知らない『大阪ハロウィン』～渋谷とはココが決定的に違う」(2017 年 10 月 31 日) (<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/53370?page=2>)(2020 年 11 月 3 日アクセス)
- (69) Ditto.
- (70) 伊藤恵里奈・鶴信吾「ハロウィーン仮装、大阪は「鬼滅」目立つ 渋谷は激減」(2020 年 10 月 31 日) (<https://news.yahoo.co.jp/articles/c68d8a2e65078019cbf3436dc75df9138aed3369>)(2020 年 11 月 3 日アクセス)
- (71) テレビ西日本「『注目を浴びたかった』 ハロウィーンで全裸に 男を逮捕 福岡市の公園」(2020 年 11 月 1 日) (<https://news.yahoo.co.jp/articles/3ef82e7629d4d2a0ed790554aa033113f4b98da6>) (2020 年 11 月 3 日アクセス)
- (72) 「一時入場制限も ハロウィーンで今年も仮装した多くの若者らが集まる 名古屋・栄のオアシス 21」(2020 年 10 月 31 日) (<https://www.nagoyatv.com/news/?id=003391>) (2020 年 11 月 3 日アクセ

ス)